

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

3月から12歳未満の子どもたちの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

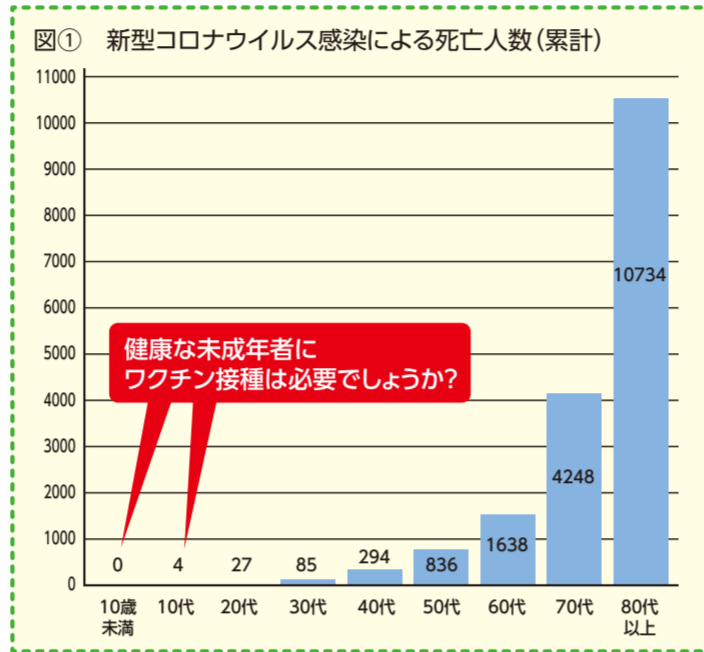
厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか。厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染はこれまで4人に1人、そのうち3人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そして一人はコロナ感染ではなく事故で死亡し、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、これまでコロナ感染で死亡した健康な未成年者は一人もいないし、重症化もほとんどない。

これまでオミクロン株をめぐって新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言える。

ところが未成年者がそもそも必要ないはずのワクチンを打つことにより、多くの重篤者（命の危険が迫っている患者のこと）や死者が出てしまっている。昨年10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴・浴槽内で水没しているところを発見された。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1606人にも上り、そのうち**

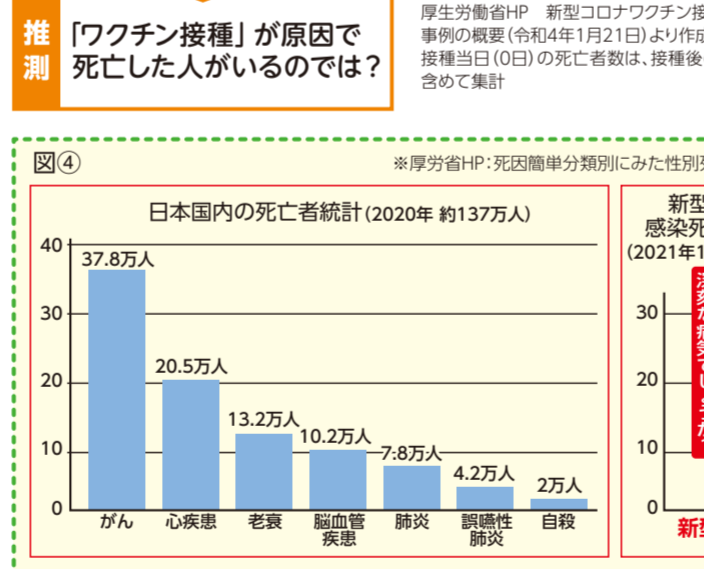
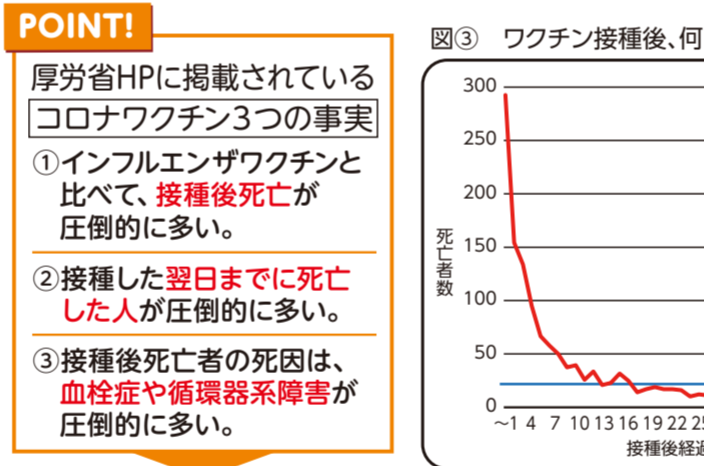
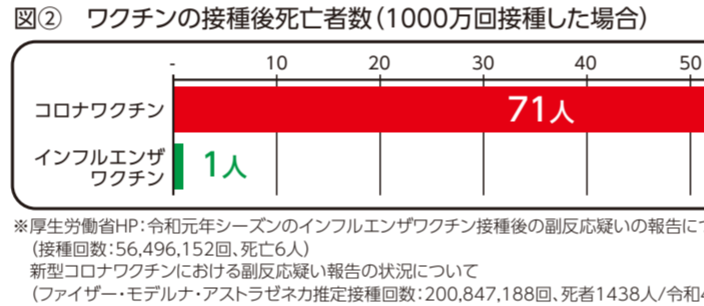


しかしその目的のために、子どもや若者連に自らの命や健康を賭けさせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない?

未成年者にして有害なものはない、大人にとっても有害な可能性はある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で**1444人**（ファイザー製377人、モデルナ製66人、アストラゼネカ製1人）に達している。しかし「ワクチン接種現場で突然死亡した」とも関係ないという。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り、**接種が原因で多くの方**

この状況を招いた最大の要因は、国や自治体が躍起になって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要なくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれてしまった。



ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を引き起こすことはありません」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の变化などの症状だけでなく、閉

経したが生理が再開したという副反応まで報告されており、日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起

っている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験試薬」だからだ。それは人体への長期的な影響が誰も予見できないことを意味する。

河野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「試験が省略されることなく実施され、長期的な安全性について特段の不安があるというとはありませぬ」と断言している。ところが事実は違っていて、厚労

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるかわからないまま接種を推進しているのが現状だ。

また、ワクチンが生殖機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザー社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分

が確実に卵巣や精巣主体にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「不妊にならない」との記載は一言もなく、ただ「現時点では、ワクチン接種が不妊の原因になるといふ科学的な根拠は報告されていません」と書いてあるだけだ。

これについて前出の井上正康大阪府立大学名誉教授は「ワクチン接種が始まったばかりのため、不妊の根拠が報告されなかったら、これから数年～数十年後のことである。何らかの異変

や有害事象が起こる可能性は否定できない。臨床試験中の実験試薬とはそういうものであり、動物実験で危険性が示唆されている治験薬を生殖世代に接種すること自体、極めて非常識である」と警鐘を鳴らし続けている。すでに全国の医師3900人が連名でワクチン接種中止を求め、厚労省に提出している。

が、今後も死亡や健康被害が増え続ければ、大規模な薬害事件に発展する可能性もある。

最後に想像してほしい。もしあなたの子どものお孫がワクチン

皆様からのご支援で活動しております。

累計寄付金額 198,026,753円 (2021年11月30日～2月13日(日)9時15分時点)

ワクチン接種後につらい症状が出た場合は…

すぐに「肺CT画像と血中Dダイマー」を検査し、不幸にも亡くなられた場合は「病理解剖」を依頼しましょう。ワクチン接種と副作用の因果関係は、情報不足で「不明」と処理されることがほとんどですが、「予防接種健康被害救済制度」を適用してもらうためにも強くお勧めします。

その他ワクチンに関する詳しい情報はこちら▶ <https://jcovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記QRコードよりご意見・ご感想をお寄せください mail@dbank.jp

株式会社ゆうネット
新型コロナウイルス関連情報発信センター
代表取締役 堤 猛 (ご意見はメールよりお願いします。)
福岡県福岡市中央区天神4-1-17 2F TEL 092-235-2470

「簡単!10分で分かる 新型コロナワクチンの危険性」
井上正康先生講演会動画

おすすめ最新書籍(参考文献)
まんがで分かりやすく解説!
「ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論4」(扶桑社)
著者:小林 よしのり (2021年11月18日)

「新型コロナワクチン論」
ワクチンの噂と科学的な真実
接種後の死者が1200人超
それでも、3mm、4mmの本域に打ち続けるのか?

本当に必要ですか?
子どもへのワクチン

(賛同団体) 岡山・倉敷新型コロナウイルス感染対策市民審議会

※ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。